

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-(3) 10-(6)	運営推進会議に家族の参加がなくホームの運営に家族の意見が反映されにくい現状にある。ホームの運営理念や家族から出された苦情や意見を、これまで以上に全家族に開示し、個別支援や運営に関する意見交換が、家族と、より一層できるよう仕組みづくりが必要。	家族や運営推進委員の皆様と、個別支援や運営に関する意見交換が、より一層高められるようにします。	①年間行事(敬老会、家族懇談会)に併せて運営推進会議を開催し、家族が参加しやすい条件を整えます。 ②日々の個別支援や運営の状況を運営推進会議等で引き続き報告し、全家族にお知らせします。 ③重要事項説明書に法人理念やホームの理念がわかるように整備します。 ④個別支援について日々家族と相談するとともにご本人の誕生日を機会にして本人、家族の援助への希望を確認します。	12ヶ月
2	33-(12)	入居者の重度化対策や看取り介護について引き続き研修に努め、細やかに本人、家族の希望を聴取し、スムーズに援助が展開できる仕組みづくりを進展させたい。	入居者の重度化対策や看取り介護について研修し、細やかに本人、家族の希望を聴取し、スムーズに援助が展開できる仕組みづくりを進展させます。	①他のGH等の実践から学ぶ機会を多く持ちとくらの家の課題に合せた援助実践を高めます。 ②本人、家族の希望を細やかに聴取し、看取り介護がスムーズに進められるよう指針や様式作りを進めます。	12ヶ月
3	5-(4) 35-(13)	いこいの村を含め、とくら福祉センターとともに地域の福祉避難所としての機能の強化と地域・行政との具体的な連携の在り方を検討・協議し発展させたい。	いこいの村を含め、とくら福祉センターとともに地域の福祉避難所としての機能の強化を進めます。	①地域にも貢献できるだけの備蓄品などの整備を検討し、災害対策を進めます。 ②地域住民の皆さんとともに防災訓練を実施し、現状の課題を明らかにして、行政・地域との協議を進めます。	12ヶ月
4	2-(2) 3	地域との連携強化として、地域包括支援センターを含めた認知症への正しい理解を広げている、認知症の人や関わる人たちが、より住みやすい地域づくりのために、ホームとして貢献できる仕組みづくりを進めたい。	認知症への正しい理解を広げるためとくらの家の実践を様々な場所や方法を駆使して地域に発信します。	①法人内の機関紙やとくらの家便りを法人の各事業所に掲示したり、地域ケア会議等を通じて関係者に発信します。 ②地域の行事や研修会、相談会に職員を派遣し情報発信を行います。 ③家族のつどいを法人内事業所と共催します。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。